

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 25 年 6 月 12 日(水)

第 10 号

発行人 校長 鈴木史良

“持続可能な社会”とは？

—平成 25 年度「わたしの主張」裾野大会より—

6 月 10 日（月）の全校集会では、教育実習生（勝間田拓さん・勝又久実さん・新澤大樹さん）の紹介、表彰のあとの校長の話の中で、先日行われた裾野市「わたしの主張」大会で発表した 3 年荻野芽生さんに全校生徒の前で発表してもらいました。本校の「いのちの用水」学習を自分なりにとらえており、極めてすばらしく、日本の中学生としてトップレベルの域に達している内容だと思います。

深良中学校で学ぶ生徒たちが皆、このような視点を持ち、地域を、日本を、そして世界を見つめ直した時、第 2 の「いのちの用水」が深良から世界に流れ出すでしょう。

以下、荻野さんの主張を紹介します。

『持続可能な社会を考える』

3 年 荻野芽生

私たちの中学校では、自分たちの住む郷土を知り、その歴史を深く理解するために、深良用水の歴史について調べ学習し、研究・発表し、さらに劇でその歴史を演じます。

今から 350 年前、駿河の国深良村では稲作が広く行われていましたが、慢性的な水不足のため、村人たちは日照りのたびに苦しい生活を強いられていました。しかし当時の人々は、このような生活の中で驚くべき発想により解決法を見いだしたのです。それは箱根外輪山にトンネルを掘り、芦ノ湖の水を深良用水から流そうという奇想天外な案でした。この常識では考えられないアイデアを実行に移すための困難と努力は、私には想像もつかないものです。石割ノミを使い、人の手で双方向から掘り抜かれた隧道。それは先祖の人々が私たちに残してくれた偉大な遺産です。そしてこの遺産は、21 世紀の今でも私たちの生活を支えています。

私たちはこの学習を通し、持続可能な社会について学びました。持続可能な社会とは、未来につながる今をつくる社会のことです。私は未来への持続を可能にした深良用水の意味について考えてみました。過去の人々の労働、苦難、資金、知恵といった有形無形の資産は将来の実を得るための「投資」とも見えます。資本主義とは、資本が中心になる経済のシステムですが、この考え方言えば、深良用水という約 350 年前の人々が投資した「資本」により、後世に生きる私たちが利益を得ていると言えるかもしれません。祖先の苦勞という財を投じたこの無謀ともいえる投資は、時間を超えて、大きな生産性と安定した社会を後の世にもたらしました。

将来に向けて今行動すること。そのような構図はこれまでも地域の小さな歴史や人



「わたしの主張」を行う荻野さん

の営みの中に度々見られてきました。私たちが人々のつながりを考えるとき、もっとも身近なのは家族です。年長者は子や孫の将来のことを考えます。もし人々が子孫のことを考えなくなり、家族や人の絆が失われれば、視野は狭くなって誰も社会の将来のことを考えなくなるでしょう。投資した成果が、自分たちだけではなく次の世代にも及ぶということが、社会の持続を可能にしていると思います。また、地方の小さな地域社会では、深良用水のような地元の人々により過去の何世代にも渡り投資され、蓄積された有形無形の遺産は、自然保護や地域性と深く関わり合い、それを支える地域の人間関係も含めてすべてがお金では取引できない価値をもつ重要な財産といえます。

私はこの「いのちの用水」学習で、私たちの住む社会は過去から受け継がれてきた蓄積の上にあり、私たちもまた次の世代にそれを受け渡す義務があることを知りました。現代の社会は、経済危機に大きな自然災害、原発の論争を含めたエネルギー問題やTPPなど、日々めまぐるしく動いています。厳しい現実には遠い未来の人々のために今の行動を考えていくことは不可能にも見えます。それに今までは東京のような大都市が、世界や日本を考える中心だと思っていました。しかし地方に点在する小さな市町村にも、次の日本を支える力や知恵があるのだと、深良用水の学習を通して学びました。普段当たり前身近にあるものの価値に気づき理解することは難しいことですが、私はこの学習の過程で、「ローカルに生活しグローバルに考える」という生き方を学びました。

有名なディズニーのイッツアスモールワールドは、「結局、世界は小さい小さい世界なんだ」と歌っていますが、日本じゅうに点在する深良用水のような資産をもつ町や村は、まさに私がここで見つけた小さな世界です。350年前には世界をつなぐインターネットも交通手段もありませんでしたが、今は世界各地で、その蓄積した知恵や発見を世界じゅうに発信することができます。新しい時代で世界は多くの情報を共有し、知識は深められて、世界はさらに小さくなるでしょう。

持続可能な社会を可能にするのは、科学技術の進歩や経済成長だけではありません。名もない人々の小さな歴史の中にある、ささやかで地道な生活、先祖の苦労や生き方がそれを可能にしたということを忘れてはいけないと思います。原始的な道具だけを用い、自らの手で堅い岩肌を掘り抜いた偉業は、まさに今に生きる私たちの心に流れる「いのちの用水」学習なのです。



「いのちの用水」劇の熱演

中体連地区予選会（陸上競技）で大記録！

6月8日（土）に行われた中体連地区予選会の男子1500m走（1年）で、小澤大輝さんが4分25秒82という大会新記録で1位となりました。福土君の記録を更新したそうです。全校集会では男子テニス部、女子卓球部も表彰され、今後各部での活躍が期待されます。